学生マンションから、共生創造企業へ。
株式会社ジェイ・エス・ビー
UniLife ジェイ・エス・ビー グループ

2026 年 11 月 27 日
株式会社ジェイ・エス・ビー

＜AI ネイティブ世代が大学生に！＞ 8 割超が課題等で AI を活用、約 6 割は「言えない悩みを打ち明ける」・「AI のいない生活は考えられない」、4 割超が「考える力の低下に不安」
【UniLife（ユニライフ）学生調査：学生の AI 利用に関する実態調査 2026】

UniLife(ユニライフ)のブランドで全国の学生マンションの企画開発・仲介斡旋・運営管理までをトータルで行う株式会社ジェイ・エス・ビー(本社：京都府京都市、代表取締役社長：森 高広 以下 当社)は、学生の “リアルな学生生活”を明らかにすることを目的に、当社が運営する全国の学生マンションに入居する学生を対象にした「UniLife（ユニライフ）学生調査」を実施しました。

今回実施した「学生の AI 利用に関する実態調査」では、当社が運営する全国の学生マンションに入居する学生 3,932 名を対象に調査を行いました。

【調査結果サマリー】

■AI ネイティブ世代が大学生へ

大学 1 年生の 3 人に 2 人が高校時代から AI を利用

- 生成 AI を週に数回以上使う学生は 8 割超、最もよく使うサービスは ChatGPT
- 大学 1 年生の約 3 人に 2 人は入学前から AI を利用している一方、大学 4 年生の 85.9%は入学後に AI の利用を始めている。

■相談しづらい悩みを AI に打ち明けた学生は約 6 割、ほぼ毎日使う学生では 7 割超

- AI を「恋愛、人間関係、悩み、メンタルの相談」に使う学生は 42.4%。
- 相談しづらい悩みを AI に相談した経験がある学生は 59.3%。AI をほぼ毎日使う学生では 71.9%にのぼる結果に。

■課題・レポートでの AI 利用は 8 割超

一方で学生の 4 割超が思考力の低下を不安視

- 課題やレポートの作成に AI を利用する学生は 81.1%。そのうち 74.8%は「構成やアイデアの参考」「自分の文章の校正・添削」として使用
- 「AI のいない生活はもう考えられない」と思う学生は 60.2%。AI が使えなくなると勉強や課題に支障があると答えた学生は 69.3%
- 学生の AI 利用へのためらいで最も多いのは「考える力が落ちそうで不安」（43.0%）

■「AI スキルは社会で必須・有利」と考える学生は 9 割超

7 割超が就職・収入の差を予感、約半数は志望する仕事の AI 置き換えに不安

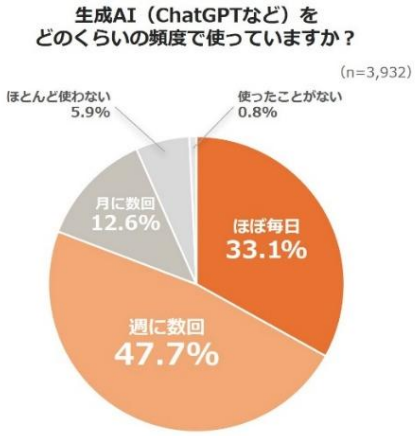
- AI を使いこなすスキルが就職や社会で「必須になる」「あると有利」と考える学生は 96.6%
- AI を使いこなせるかどうかで就職や収入に差がつくと考える学生は 74.2%
- 志望する仕事や業界が AI に置き換えられる不安を感じる学生は 51.0%

【調査概要】
調査期間：2026 年 9 月 28 日（月）～2026 年 10 月 12 日（月）
調査方法：インターネット調査
調査対象：当社が運営する全国の学生マンションに入居する学生 3,932 名（大学、専門学校他）
※本調査レポートの百分率表示は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100%にならない場合があります。
※複数の選択肢を合算した数値は、回答数から算出しています。

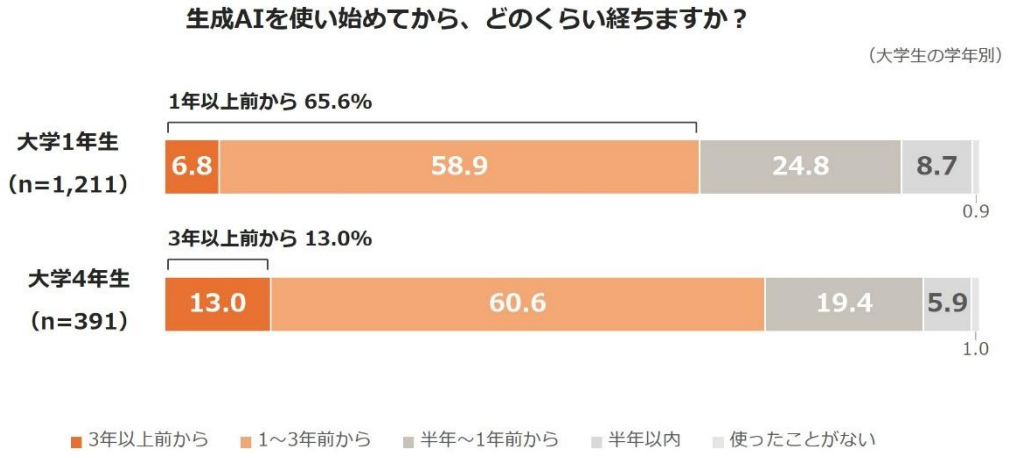
■AI ネイティブ世代が大学生へ

大学 1 年生の 3 人に 2 人が高校時代から AI を利用、一方 4 年生で 3 年以上前から AI を使用していたのは 1 割強にとどまる

生成 AI（ChatGPT など）をどのくらいの頻度で使っているかを尋ねたところ、「ほぼ毎日」（33.1%）と「週に数回」（47.7%）を合わせて、8 割超（80.8%）の学生が週に数回以上 AI を利用していることがわかりました。



また、生成 AI を使い始めてからどのくらい経つかを尋ねたところ、大学 1 年生の約 3 人に 2 人（65.6%）が「1 年以上前から」使っていると回答しました。今年 4 月に入学した 1 年生の多くは高校時代から AI に触れており、AI が身近にある環境で育った“AI ネイティブ”ともいえる世代が大学に進学している状況が浮き彫りとなりました。



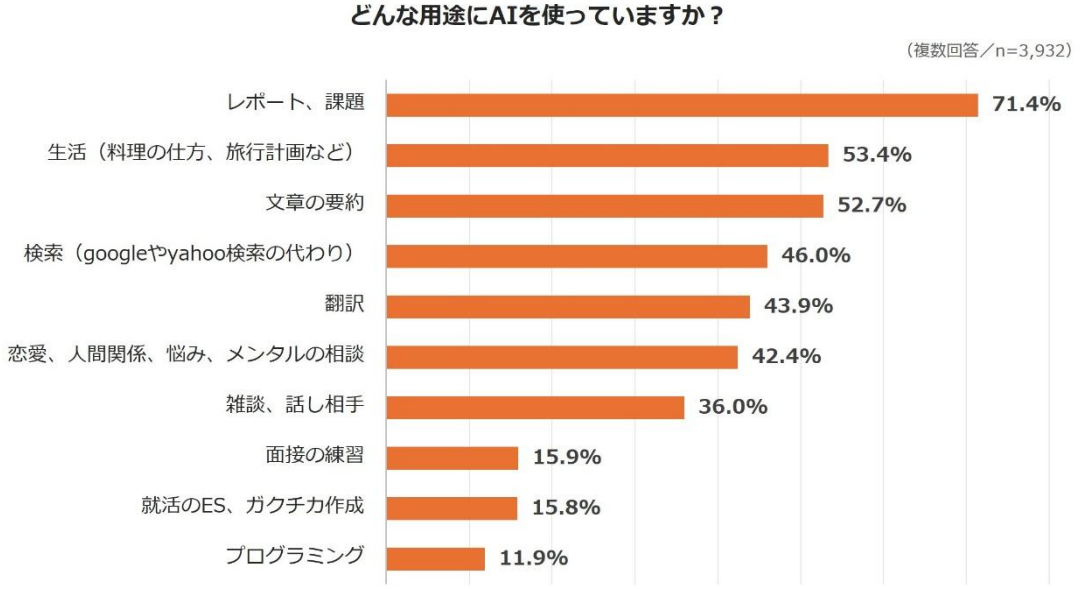
一方、大学 4 年生で「3 年以上前から」使っていると回答した学生は 13.0%にとどまり、85.9%は大学入学後に AI を使い始めていました。入学年がわずか 3 年異なるだけで、AI と出会うタイミングが「大学入学後」から「高校在学時」へと前倒しされていることがわかります。

最もよく使っているサービスは、ChatGPT（67.3%）が最多となり、Gemini（25.7%）、Copilot（3.3%）、Claude（2.2%）が続きました。

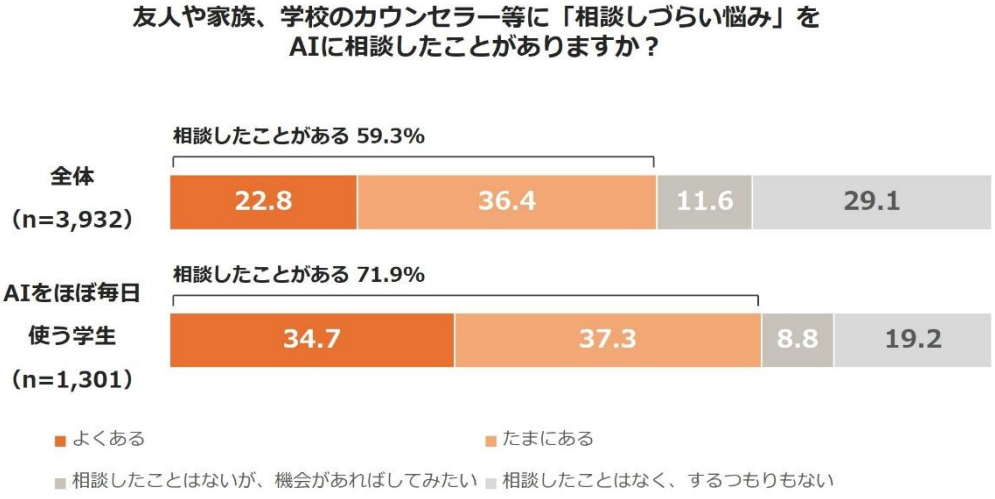
■学生の“相談相手”に AI という選択肢

相談しづらい悩みを AI に打ち明けた学生は約 6 割（59.3%）、ほぼ毎日使う学生では 7 割超（71.9%）

AI 利用の用途を尋ねたところ、最も多かったのは「レポート、課題」（71.4%）で、「生活（料理の仕方、旅行計画など）」（53.4%）、「文章の要約」（52.7%）が上位となりました。さらに、「恋愛、人間関係、悩み、メンタルの相談」（42.4%）や「雑談、話し相手」（36.0%）も多く挙げられ、AI が勉強の道具にとどまらず、日々の暮らしや心の支えとしても使われていることがわかりました。

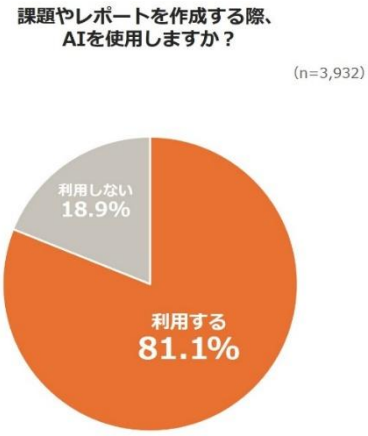


また、友人や家族、学校のカウンセラー等に「相談しづらい悩み」を AI に相談したことがあるかを尋ねたところ、「よくある」（22.8%）と「たまにある」（36.4%）を合わせて約 6 割（59.3%）が AI に相談経験があると回答しました。AI をほぼ毎日利用する学生では 71.9%にのぼり、身近な人には打ち明けにくい悩みの受け皿として、AI が学生の新たな選択肢になっていることがうかがえます。



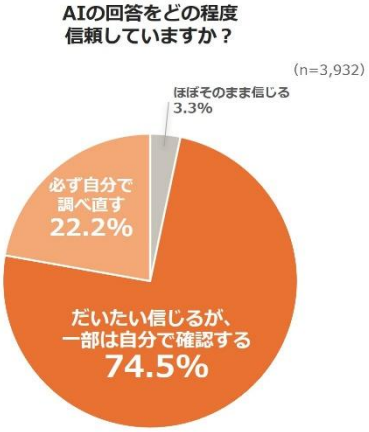
■課題・レポートでの AI 利用は 8 割超（81.1%）
**　課題で AI を使用する学生の約 75%は「文章は自分で書く」、9 割超が AI の回答を鵜呑みにせず確認**

課題やレポートを作成する際に AI を使用するかを尋ねたところ、8 割超（81.1%）の学生が「利用する」と回答しました。



また、利用すると回答した学生にその使い方を尋ねたところ、「構成やアイデアの参考として使い、文章自体は自分で書いている」が半数（50.0%）で最も多く、「自分の書いた文章の校正・添削のみに使っている」（24.7%）と合わせて 74.8%にのぼりました。多くの学生が AI に文章を書かせるのではなく、自分で考え、書くための補助として AI を活用していることがわかりました。

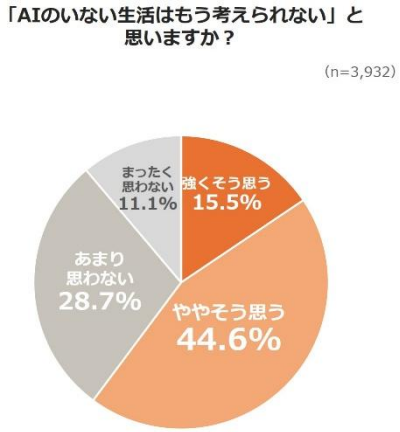
AI の回答が明らかに間違っていた、事実と違った経験があるかを尋ねたところ、「何度もある」（42.5%）と「たまにある」（51.9%）を合わせて 9 割超（94.4%）が経験していることがわかりました。



また、AI の回答をどの程度信頼しているかについては、「だいたい信じるが、一部は自分で確認する」（74.5%）が最も多く、「必ず自分で調べ直す」（22.2%）と合わせると、9 割超（96.7%）の学生が AI の回答を鵜呑みにせず確認する姿勢を持っていることがわかりました。

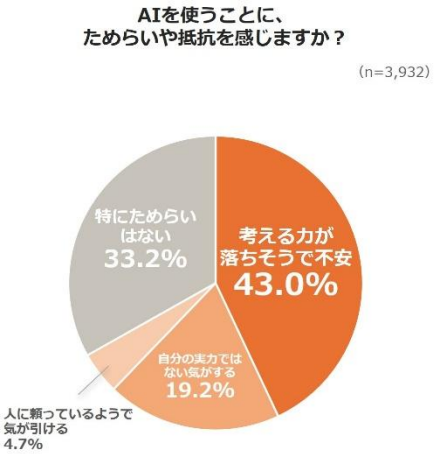
■「AI のいない生活は考えられない」6 割（60.2%）、「考える力の低下」に不安を感じる学生も 4 割超（43.0%）

「AI のいない生活はもう考えられない」と思うかを尋ねたところ、「強くそう思う」（15.5%）と「ややそう思う」（44.6%）を合わせて 6 割（60.2%）の学生がそう思うと回答しました。

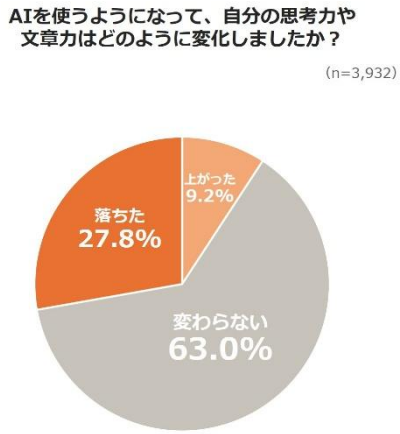


また、もし AI が使えなくなったら今の学校の勉強や課題をこなせると思うかを尋ねたところ、「こなせるが、かなり大変になる」（63.1%）と「こなせないと思う」（6.2%）を合わせて約 7 割（69.3%）が支障を感じると回答し、AI が学業に深く根づいている実態が明らかになりました。

一方で、AI を使うことにためらいや抵抗を感じるかを尋ねたところ、「考える力が落ちそうで不安」（43.0%）が最も多く、「特にためらいはない」（33.2%）を上回りました。

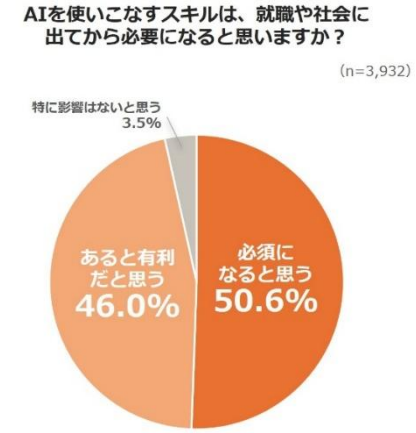


さらに、AI を使うようになって自分の思考力や文章力がどう変化したかを尋ねたところ、「落ちた」と感じる学生（27.8%）が「上がった」（9.2%）の約 3 倍となりました。

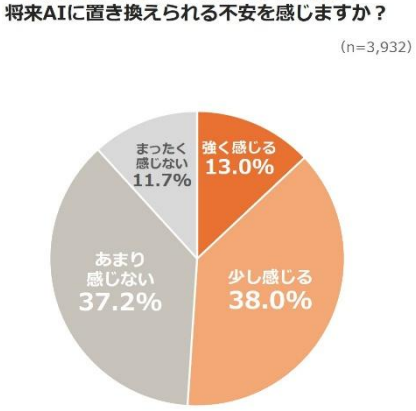


■「AI スキルは社会で必須・有利」96.6%
7 割超（74.2%）が就職・収入の差を予感、約半数（51.0%）は志望する仕事の AI 置き換えに不安

AI を使いこなすスキルは就職や社会に出てから必要になると思うかを尋ねたところ、「必須になると思う」（50.6%）と「あると有利だと思う」（46.0%）を合わせて 96.6%にのぼりました。また、AI を使いこなせる人とそうでない人で就職や収入に差がつくと思う学生も 74.2%となり、AI 活用能力が将来のキャリアを左右する重要な要素として捉えられています。



一方で、自分が就きたい仕事や志望する業界が将来 AI に置き換えられる不安を感じるかを尋ねたところ、「強く感じる」（13.0%）と「少し感じる」（38.0%）を合わせて約半数（51.0%）が不安を感じていると回答しました。



【総括】
今回の調査では、8 割超の学生が週に数回以上 AI を利用しており、大学 1 年生の多くは高校時代から AI に触れていることがわかりました。用途は課題やレポートにとどまらず、約 6 割が“相談しづらい悩み”を AI に打ち明けた経験があるなど、AI が学業と暮らしの両面で身近な存在となっていることが明らかになりました。

一方で、課題やレポートでは約 75%が「文章は自分で書く」使い方をしており、9 割超が AI の回答を確認する姿勢を持つなど、多くの学生が AI と節度を持って向き合っています。同時に、4 割超が「考える力が落ちそう」と不安を抱えるなど、AI との向き合い方を学ぶ機会へのニーズもうかがえる結果となりました。
96.6%の学生が AI スキルを社会で「必須」「有利」と考えている今、学生が AI を正しく、主体的に使いこなすための学びの場は、今後ますます重要になっていくと考えられます。

【UniLife 学生調査について】
学生の “リアルな学生生活”を明らかにすることを目的に、全国の UniLife（ユニライフ）学生マンションの入居者を対象に当社が実施している学生向け調査です。学生生活のパートナーとなることを目指し、今後も学生生活を取り巻く様々なテーマに関して定期的に調査を実施していきます。

【当社概要】
本社所在地：京都府京都市下京区因幡堂町 655 番地
創　業： 1976 年 12 月
代　表： 代表取締役社長　森 高広
ＵＲＬ： https://www.jsb.co.jp/
全国の学生マンション検索サイト:　https://unilife.co.jp/

2026 年 12 月に創業 50 周年を迎えるジェイ・エス・ビーグループは、全国で学生マンションの運営管理を手掛け、現在では北海道から沖縄まで学生向け賃貸仲介店舗「UniLife（ユニライフ）」85 店舗を展開、2026 年 4 月時点で 103,040 室を管理しています。近年では、食事や家具家電付きの住まいの提供や、学生の「学び・成長」を支援する取り組みに力を入れています。